

開催日時：令和2年7月14日（火）午前10時～12時20分

開催場所：小俣農村環境改善センター 多目的ホール

出席委員：市川知律会長、浦田宗昭委員、竹澤尚美委員、森見典子委員、川口幸生委員、大田桃子委員、中川佳代委員（欠席：直江敦代委員、岡田まり委員、三上政和委員）

事務局：伊勢市障害者総合相談支援センター フクシア（基幹型）職員2名

傍聴者：4名

各プロジェクトチームの共有・今後の検討

●地域生活支援拠点チームからの報告

○これまでの議論を「最終提言書」としてまとめていく。

○地域生活支援拠点について以下の項目の体験機能のあり方について検討した。

- ・一人暮らし
- ・グループホーム
- ・ヘルパー
- ・訪問看護
- ・ショートステイ
- ・日中活動

○今後については、地域生活支援拠点チームの在り方について検討していく。

【障がい福祉課 課長より】

○ニーズ調査については把握している。市内事業所がどこまで体制を作れるのか確認するためのアンケートをとった。結果については次回の部会で改めて報告する予定。今年度中には全体の体制を作っていく。

【各委員より】

○チーム会議の内容も含め、今後まとまるといった理解でいいのか。最終提言書の整備の在り方が重要と感じるが、どの部分を概要版とするのか。

⇒概要版は6枚程度を想定。最終提言書に体験機能を追加し、図にて分かるようにする。

○肢体の資源が少ない。ヘルパーを増やして頂きたい。

⇒施策推進協議会へ提言書として、出す書類となる。意見としては箇条書きのものを1枚提出し、概要の詳細については、別紙にする等の工夫をしてもらいたいと考えている。

●人材確保・養成チームからの報告

○中学生への福祉の仕事についての啓発（ビジネスパーク伊勢）について

- ・社協の事業等を活用し、興味のある子どもを増加させて繋げるのもいいのでは。
- ・講師については、様々な事業所から参加していただきたい。

○就職面接会・相談会・啓発会については、福祉人材センターでのリモート形式の予定

○ヘルパー養成システムについて、既存のヘルパー資格取得等への助成制度を一覧化し検討

- ・看護師は、病院から学費補助や奨学金の返済免除があったりと充実している。
- ・資格の取得援助だけでなく、ヘルパーの魅力等についても発信が必要

○ヘルパーの働きやすさフォローアップとして、障害や病気の特徴を知る研修があると良い

○働いている人同士の意見交換、励まし合い等の場があれば良い

●就労支援チームからの報告

○障がいのある人の就労支援について

- ・「準備期」「求職期」「定着期」を通して追加的課題を検討

- ・大学卒業後、就労数年で違和感に悩み退職するケースが多い

○新型コロナウイルス感染症の影響について

- ・ A型が収益困難でB型に移行ということが発生している。一般就労の求人も減少。
 - ・ 貸付や家賃補助の相談が増加。
 - ・ 特別支援学校高等部3年生の現場実習は老人施設では行えない。
- 就業・生活支援センターふらっとについては、6月に伊勢イオンに相談事業所を開設。伊勢市以外の方が対象となり、伊勢市の人は津へ相談。

●障害福祉サービス事業所連携会議について

- 各種別ごとに開催予定の障害福祉サービス事業所等連携会議への申込状況を報告。
- Web会議への対応が難しい事業所があり、参加数が減少したと考えられる。
- 本連携会議でのアンケートについて意見をほしい
- Web会議はあまり慣れていないため、今後もうまく活用していきたい。

●サービス事業所等連携会議全体会・交流会

- 第1回 連携会議全体会及び第1回交流会の開催と内容案について以下のとおり報告。
 - ・ 連携会議 事業所を対象とし、全体共有と勉強会を行った。
 - ・ 交流会 保護者、家族、興味のある支援者を対象とし、PRや講演を行った。
 - ・ 基本的にはWeb会議での参加であったが、難しい人は集まってもらった。
- サービス管理責任者の制度改正についてわかりにくいという意見があった。
- 交流会が一方的な情報発信で終わっているため、相互的に理解を深める必要がある。
- 運営会議委員とも連携をとれると良い。障がい福祉課の方に顔を出してもらいたい。
⇒事務局が市の委託として、運営を行っているため、事務局と市が連携して事業を行っていくのが最善と考えており、事務局が市の役割を担っていると解釈していただきたい。

●相談支援体制の検証

- 基幹型を含めた相談支援体制等の評価をすべきと意見があり、基幹型について説明。
 - ・ 基幹型の設置の効果：他支援との連携促進、協議会の活発化、地域の一次相談の安心化とされている。
 - ・ 業務内容：総合的専門的な相談支援の実施、地域の相談支援体制の強化の取組み、地域移行・地域定着の促進の取組、権利擁護・虐待の防止、協議会の設置 等
 - ・ 地域の相談体制：基幹型を含め、3層構造となっている

【各委員より】

- 相談支援体制検討用セルフチェックシートについては、伊勢市版として改良してだしてほしい。ネットワーク会議で、相談支援の皆さんから基幹型の評価及び意見等を出して頂きたい。
⇒他者評価の提案について、伊勢市と確認させていただく。

●新型コロナウイルスの対応について

- 第2波に備えるために課題共有や情報共有を行った。リモート会議を主体とした。
- 感染者が出た場合には分離隔離対応となる。
- 今後については、マニュアルやシミュレーションを行い、迅速に対応できるようにしていきたい。行政や保健所との連携も取る必要がある。